

2020 年度 環境経営レポート

(2020 年 4 月～2021 年 3 月)



Ⓚ 九州高圧コンクリート工業株式会社

目次

1. 会社概要	1
2. 経営理念	3
3. 環境経営方針	3
4. 環境活動推進体制	4
5. 中長期目標	
(1) 現行3ヶ年の目標と実績(2018年度～2020年度)	5
(2) 二酸化炭素排出量の推移	5
6. 2020年度環境活動実績	
(1) 活動内容	6
(2) 単年度目標と実績並びに次年度の取組み	7
(3) 事業活動による環境負荷量	9
(4) 特定事業者としての取組み	10
(5) 環境活動コスト	10
(6) 会社収支への貢献	11
(7) 地域貢献活動	12
(8) 令和2年度 第13回 環境経営(活動)レポート大賞・九州【環境経営賞】受賞	12
(9) オール電化の推進	13
7. 2020年度環境関連法規の遵守状況	13
8. 産業廃棄物処理業に関する情報	14
9. 2021年度環境活動目標	15
(1) 中長期目標 向こう3ヶ年(2021年～2023年)の目標	15
(2) 単年度目標	15
(3) 活動内容	15
10. 代表者による全体評価と見直し	16

1. 会社概要

基本情報

■事業者名 九州高圧コンクリート工業株式会社 ■代表者 掛林 誠
 ■資本金 2億4千万円 ■設立年月日 1957年11月5日

事業内容

- コンクリートポール及びコンクリートパイル、その他コンクリート製品の生産並びに販売
- 土木建築工事の設計・施工並びに監督
- 産業廃棄物のリサイクル及び中間処理業(破砕)
- 既設コンクリート構造物調査・診断に関する事業

事業所

■本社 福岡市南区向野1丁目13番14号
 ■熊本工場 菊池市旭志川辺1349番地の4
 ■豊前工場 豊前市大字八屋2544番地の61
 ■鹿児島営業所 鹿児島市南林寺町26番4号

事業の規模

■売上高 84.17 億円
 ■生産量 63,046 トン
 ■工事件数 360 件
 ■産業廃棄物処理量 16,072 トン

許可内容

- 建設業 土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、塗装工事業
- 産業廃棄物処理業 中間処理(破砕): ガラスくず等(自動車等破砕物を除く。)、がれき類

沿革

1957年11月	設立	2010年 9月	エネルギー使用の合理化に関する法律に基づき特定事業者指定
1958年 9月	九州電力㈱にポール納入開始	2011年11月	エコアクション21認証取得
1958年10月	豊前工場竣工	2012年 9月	再生骨材製造プラント設置(熊本)
1964年 4月	PCパイル製造開始	2012年11月	再生骨材使用ポール生産開始(熊本)
1970年 4月	JR、NTTにポール納入開始	2013年11月	環境活動レポート大賞・九州廃棄物部門賞受賞
1971年 7月	鹿児島営業所を設置	2014年 7月	ポール生産を熊本工場に集約
1977年 4月	電線類地中化製品製造開始(豊前)	2014年11月	環境活動レポート大賞・九州九州地方環境事務所長特別賞受賞
1981年 9月	熊本工場竣工	2017年11月	創立60周年
1998年 2月	廃品コンクリートポールのリサイクル事業開始	2017年11月	環境活動レポート大賞・九州エネルギー部門賞受賞
2001年 1月	ISO9001 品質システム認証取得	2019年11月	環境経営(活動)レポート大賞・九州大賞・九州賞受賞
2007年 5月	新 JIS マーク取得(豊前)	2020年 2月	環境コミュニケーション大賞 環境経営レポート部門 優良賞受賞
2007年 7月	新 JIS マーク取得(熊本)	2020年12月	環境経営(活動)レポート大賞・九州環境経営賞受賞



熊本工場



豊前工場

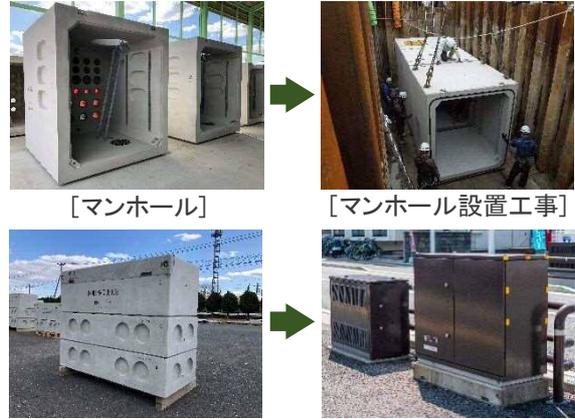
主な事業

■ポール事業(製造、販売、設計、施工、劣化診断・補修工事等)



コンクリートポール
カラーポール
(九州電力用、NTT用、電車用)
分割式継コンクリートポール
(照明用、防球ネット用、アンテナ用)

■地中線事業(製造、販売、設計、施工、設備の点検・清掃等)



[マンホール]

[マンホール設置工事]

[ハンドホール(機器用)]

■パイル事業(製造、販売、設計、施工等)



[杭打ち工事]

■産業廃棄物処理事業(産業廃棄物のリサイクル及び中間処理)



[廃品ポールの破碎処理]
収集した産業廃棄物(廃品ポール)の
リサイクル促進

◇循環型社会への貢献(資源循環)

○環境衛生資材

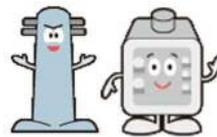
*コンクリートスラッジを有効活用した商品
(殺菌力、吸水力、脱臭力等に効果あり)



[床カラッと12(新商品)]

○リサイクル製品

*自社製品原料に再生骨材を一部使用



[丸電向けポール
丸電向けマンホール]

[ポール付属品]

○売却



[路盤材
再生砕砂、再生砕石
コンクリートスラッジ]

[鉄筋]

分別

2. 経営理念

経営理念

「ありがとうと言われる会社になろう」

社 是

- ・事業を通じて、社会に貢献します
- ・事業の安定した成長と健全な発展に努めます
- ・従業員の生活の安定と向上を図ります

行動規範

- 私達は
- ・自分の仕事に対して強い責任を持ち、誠実で誰からも信頼されるよう行動します。
 - ・品質、価格、納期面で競争力を確保し続けるとともに、お客さまに喜ばれる製品・サービスを創造し提供します。
 - ・コミュニケーション豊かな企業風土を醸成し、働き甲斐を感じハラスメントの無い明るく楽しい職場を創ります。
 - ・何事にも前向きに取組み、失敗を恐れず果敢に挑戦します。
 - ・慣例にとらわれず常に柔軟に考え、知恵を出し合います。
 - ・常にお互いの人格や価値観、立場を尊重し、真剣に向き合います。
 - ・ルール・規則、作業手順を遵守し、安全第一を徹底します。
 - ・公平で公正、かつ透明性の高い企業活動を通じ、法令遵守に努めます。
 - ・企業活動を通じて社会の健全な発展に寄与し、信頼される存在であり続けます。
 - ・環境保全の重要性を認識し、事業活動に伴う環境負荷の低減に取組み、環境に優しい企業を目指します。

3. 環境経営方針

環境理念

九州高圧コンクリート工業株式会社はコンクリート製品の生産・販売を中核とする全ての事業活動が地球環境に影響を与えていることを自覚し、地域環境との調和を目指して事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組めます。

基本指針

1. 環境活動として、次の重要テーマに取り組めます。
 - (1)温室効果ガス排出量の削減
 - (2)廃棄物量の削減・リサイクルの推進
 - (3)水使用量の削減
 - (4)化学物質使用量の削減
 - (5)グリーン調達推進
2. 環境関連法規等を遵守します。
3. 環境経営目標及び環境経営計画を策定し、継続的に改善を行います。
4. 環境経営を通じて、SDGsの目標達成に向けた活動を積極的に行います。
5. 環境経営方針を全社員に周知し、社員一丸となった環境活動を推進します。
6. 環境経営レポートを作成、公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。

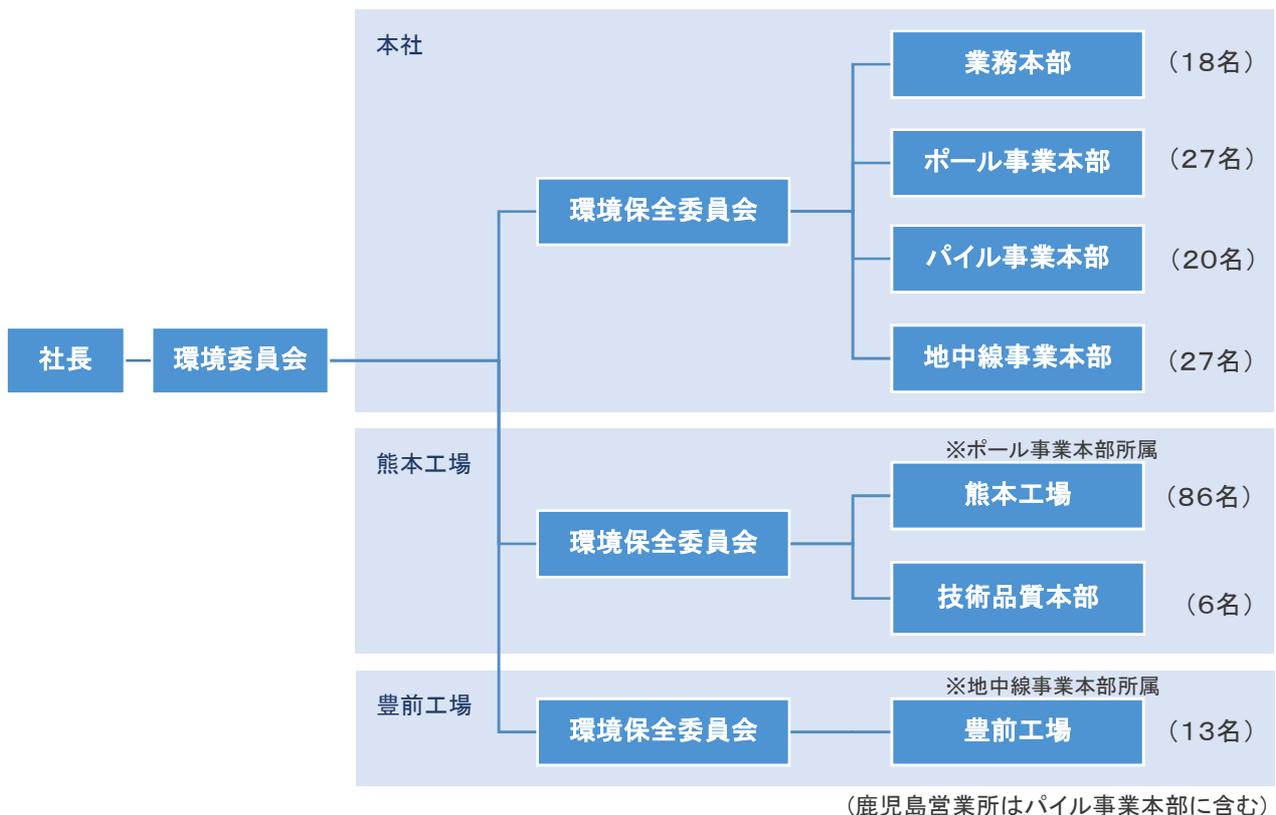
制定 2010 年 12 月 6 日 改定 2021 年 7 月 1 日

九州高圧コンクリート工業株式会社 代表取締役社長 掛林 誠

4. 環境活動推進体制

[2021年7月]

従業員: 198名



委員会の構成

	環境委員会	環境保全委員会		
	(全社)	(本社)	(熊本工場)	(豊前工場)
委員長	業務本部長[環境管理責任者]	業務本部長	工場長	工場長
委員	環境保全委員長 エネルギー管理員 エネルギー管理企画推進者	関係管理職 エネルギー管理員	関係管理職 エネルギー管理員	関係管理職 エネルギー管理員
事務局	業務本部総務G	総務G	生産G	生産・検査G

主な役割

	組 織	責 任 者	
環境委員会	環境活動マニュアル策定 環境方針・計画及び目標の策定 公害防止に関する対応事項策定 省エネ法対応 等	環境管理責任者	全社における環境活動の構築・運用 責任者
環境保全 委員会	環境計画及び目標の啓蒙・実施 環境活動の確認・評価 公害防止対応 緊急事態への対応 等	環境保全委員長	事業所における環境活動の構築・運用 責任者
事務局	環境への負荷 取組みの取りまとめ 環境関連法規の確認・情報収集 環境経営レポートの作成 等		—

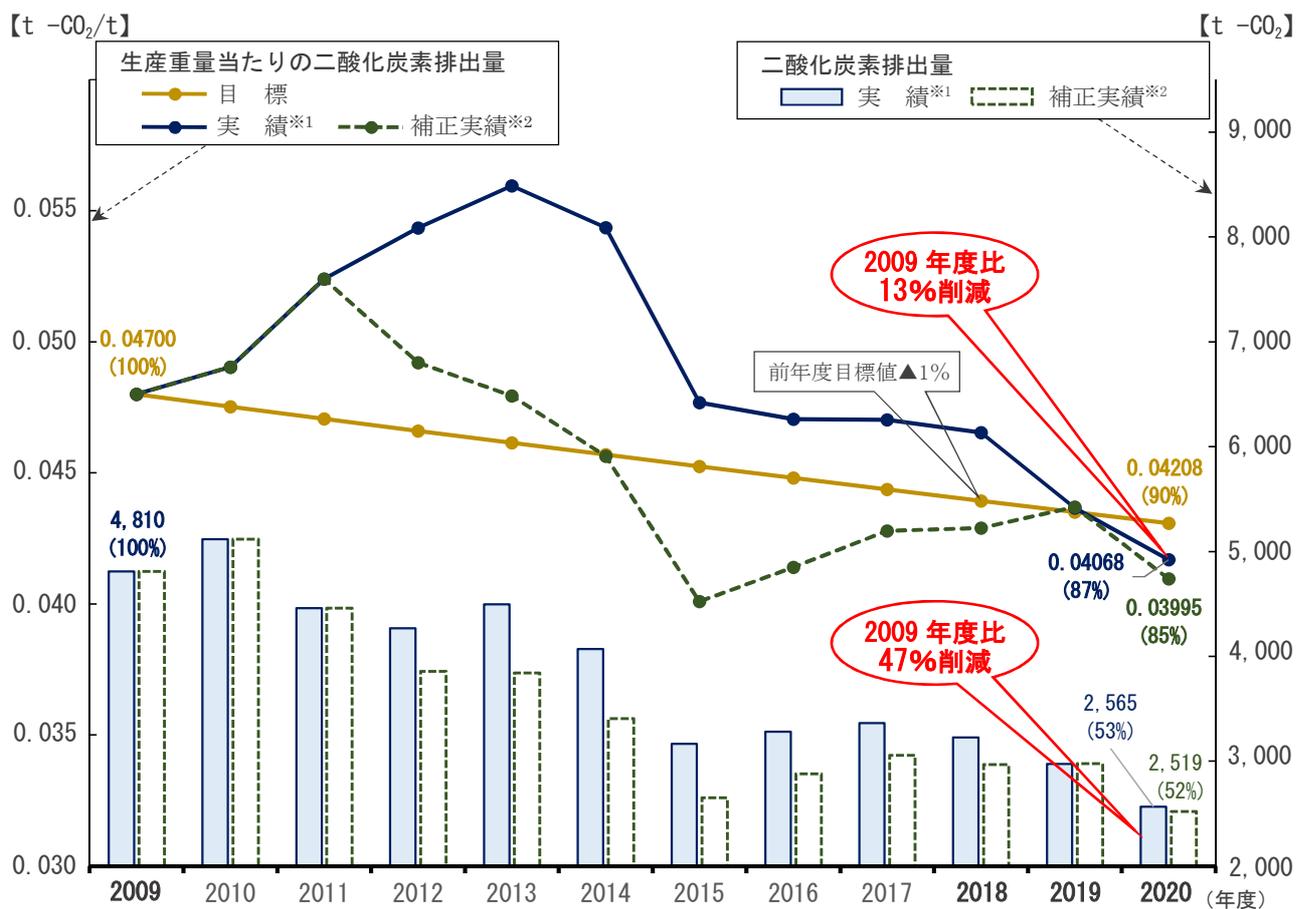
5. 中長期目標

(1) 現行3ヶ年の目標と実績(2018年度~2020年度)

項目		2017年度 (基準年) ^{※1}	2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素排出量	目標【t-CO ₂ /t】	0.04337	0.04293	0.04250	0.04208
	実績【t-CO ₂ /t】	0.04602	0.04554	0.04267	0.04068
産業廃棄物 リサイクル率	目標【%】	96	96	96	96
	実績(製造業)【%】	98	100	100	100
	実績(建設業)【%】	100	100	99	100
水使用量	目標【m ³ /t】	0.78	0.77	0.76	0.75
	実績【m ³ /t】	0.50	0.46	0.55	0.65
事務用品 グリーン調達率	目標【%】	86	86	86	86
	実績【%】	92	92	95	96

- ・ ※1は、現行3ヶ年目標の基準年度を示す
- ・ tは生産重量を示す

(2) 二酸化炭素排出量の推移(2009年度を基準年とする)



- ・ ※1は、EA21ガイドライン2017に従い九州電力の各年度の調整後排出係数を使用
- ・ ※2は、九州電力の2008年度調整後排出係数(0.348 kg-CO₂/kWh)を使用
- ・ ()は対基準年度比を示す

(参考)

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
生産重量【t】	102,343 (100%)	106,514 (104%)	86,795 (85%)	80,027 (78%)	81,833 (80%)	76,296 (75%)	67,823 (66%)	71,232 (70%)	73,097 (71%)	70,853 (69%)	69,726 (68%)	63,046 (62%)
調整後排出係数 【kg-CO ₂ /kWh】	実績	0.348	0.348	0.503	0.599	0.617	0.598	0.528	0.483	0.463	0.347	0.370
	補正值	-	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348	0.348

6. 2020年度環境活動実績

(1) 活動内容（計画と実績）

環境活動方針	取組み内容	関連 SDGs*
地球環境問題への取組み	事業所における省エネ・省資源活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季・冬季における省エネルギー推進の取組み ・高効率機器(受変電設備・空調機器・照明設備等)の計画的更新 ・場内設備のエアリー漏れ箇所の総点検 ・オートクレーブ養生廃止 ・工業用水のリサイクル、洗浄水の循環化 	
	規制対象フロン回収徹底と代替化への取組み <ul style="list-style-type: none"> ・機器撤去時のフロン回収実施 ・業務用空調機器の各種証明書の整備 ・業務用空調機器の簡易点検(4回/年) 	
循環型社会形成への取組み	廃棄物のゼロエミッション活動の継続的な展開 <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営で発生した産業廃棄物の分別 ・受託回収した産業廃棄物(廃品コンクリートポール)の適正な管理・処理 ・ペーパーレス化の推進等による紙資源の節減(FAXのペーパーレス化実施) ・回収BOXへの古紙回収 ・環境衛生資材「床カラッと」の販売 ・スラッジ混合路盤材の生産量拡大への検討、実施 	
	グリーン調達推進 <ul style="list-style-type: none"> ・事務用品・建設資材の積極的なグリーン商品購入と購入実績の確実な把握 	
地域環境の保全	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質排出把握管理促進法に基づいた化学物質使用量の的確な把握 ・環境保全設備の適切な運用 ・取扱量1トンの超の物質を届出 	
社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営レポート作成、公開 ・レポートを環境経営レポート大賞・九州に応募(環境経営賞受賞) ・レポートを取引先へのPRや採用活動、社内環境教育ツールとして活用 	
	地域に密着した環境活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・事業所周辺の清掃活動(本社：毎週、工場：4回/年) ・違反広告物撤去活動(2回/年) ・九電グループ3社合同地域清掃活動 	
環境管理の推進	環境マネジメントシステムの自立運用 <ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会開催(2回/年) ・環境保全委員会開催(本社：2回/年、工場：4回/年) ・内部監査実施 	
	環境教育の実施及び環境情報の共有化 <ul style="list-style-type: none"> ・環境の情勢変化に対応した環境教育実施(SDGsの理解・浸透) ・法令等の理解不足等に起因する不適切な事案の共有 ・「九電グループ環境担当者連絡会議」を活用した情報収集、知見共有の実施 	

※ SDGsと2020年度活動内容との関連性を表示

(2) 単年度目標と実績並びに次年度の取組み ~PDCAを回す~

中長期目標(P5)の展開

①二酸化炭素排出量 … オフィス電力、工場等の電力、低公害車、ガソリン、A重油
 ②産業廃棄物リサイクル率 … 製造業の産業廃棄物、古紙、用紙使用量、スラッジ有効活用、環境関連法令の遵守、
 建設業の産業廃棄物、産業廃棄物処理業の受託した産業廃棄物

③水使用量 … オフィス水、工場等の水
 ④事務用品グリーン調達率 … 事務用品、建設資材

目標項目 (P)	主な取組み (D)	目標	実績	達成度 %	参考		評価 (C)	次年度の取組みへの展開 (A)	
					基準年度比 (基準年度) %	前年度比 (2019年度) %			
【製造業】									
オフィス電力 使用量削減	・クールビズ・ウォームビズの取組み ・空調機器の適正温度管理 ・使用していないエリアの電源 OFF	7.66 kWh/m ² 以下	8.29 kWh/m ²	91.7	88.7 (2009)	111.3	×	・クールビズ、ウォームビズ等、省電力の取組みは定着している ・猛暑日対策や新型コロナ感染予防の室内換気により空調機器の使用 が増加し、目標未達(新型コロナ感染なし)	・夏季・冬季における節電への取組みを継続 ・安全面・健康面に配慮しながら省電力の取組みを継続
工場等の電力 使用量削減	・設備等エアリー漏れ箇所の総点検 ・受変電設備高効率変圧器への切替 ・照明器具等の LED 化	30.0 kWh/t 以下	32.8 kWh/t	90.6	101.3 (2009)	103.0	×	・製造に工数がかかる通信ポールの受注増や主力製品である電力ポ ールの受注減に伴い、生産重量当たりの電力使用量が増加し、目標未達 ・高効率機器への更新や節電への取組みは定着している	・圧縮空気消費量抑制の取組みを継続 ・製造設備機器等の効率的な運用の一層の徹底 ・高効率機器(空調機器・照明設備等)の計画的更新
低公害車の導入	・車両計画に基づき、低公害車導入	71.0 %以上	88.9 %	125.2	125.2 (2009)	100.0	○	・車両更新時に合わせて、計画的な切替を実施している	・車両計画に基づき、計画的な切替を継続
ガソリン 消費率向上	・エコドライブ 10 のすすめの継続 ・乗り合せ声掛け ・TV会議を活用した事業所間移動の低減	13.5 km/ℓ以上	14.6 km/ℓ	107.8	104.0 (2010)	95.7	○	・エコドライブの取組みが定着している ・新型コロナ感染予防による移動自粛や事業所間移動の抑制により、 乗用車のガソリン使用量が減少し、全体の消費率が悪化	・エコドライブ 10 のすすめのビデオやリーフレットを活用し、取組みを継続 ・TV 会議を活用した事業所間移動の低減により、燃料使用量削減の 取組みを継続
A重油 使用量削減	・蒸気養生槽自動制御(温度管理)装置 の設置、蒸気配管ルート見直し ・オートクレープ*1 養生廃止	10.9 ℓ/t 以下	9.1 ℓ/t	117.0	75.6 (2009)	88.9	○	・A重油使用量削減の取組みが定着している ・オートクレープ*1 養生廃止により、A重油使用量と原単位は大きく 改善している	・蒸気養生槽自動化装置を活用した養生槽内低温化の検討 ・計画的に熱ロス対策を継続(養生設備の見直し)
産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底 ・環境衛生資材「床カラット 12」販売	96.0 %以上	100.0 %	104.2	104.4 (2010)	100.0	○	・リサイクルを前提に取引先を選定し、処理委託を実施している ・顧客への販売が定着している	・リサイクルによる産業廃棄物削減への取組みを継続 ・「床カラット」増産体制の確立や販売拡大に向けた取組みを継続
古紙 リサイクル率 100%	・分別の徹底 ・回収 BOX への古紙回収	100.0 %	100.0 %	100.0	100.0 (2009)	100.0	○	・分別や古紙回収の取組みが定着している	・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続
用紙 使用量削減	・両面コピー、裏面使用の推進 ・電子媒体活用によるペーパーレス化	975 枚/人以下	790 枚/人	119.0	80.3 (2010)	97.4	○	・両面コピー・裏面利用が進み、資源有効活用の意識が定着している ・新たな複合機を導入し、FAX のペーパーレス化に取組んでいる	・用紙使用量削減の取組みを継続 ・無線 LAN 整備及び DocuWorks ソフトウェア活用によるペーパーレ スの推進(本社)
オフィス水 使用量削減	・節水コマの設置 ・節水の推進及び子メーター管理	0.54 m ³ /人以下	0.40 m ³ /人	125.1	104.7 (2009)	98.6	○	・子メーター管理による節水の取組みが定着している	・水使用量削減の取組みを継続
工場等の水 使用量削減	・工業用水リサイクルの取組み ・子メーター管理及び節水の推進	0.75 m ³ /t 以下	0.65 m ³ /t	114.2	76.8 (2009)	117.2	○	・熊本工場破砕場の粉塵対策として散水量を増やしたことで使用量が 増加。散水に処理水や雨水を用いるなど取組みが必要 ・日々の子メーター管理や老朽化配管の点検、整備を実施している	・散水に工業用処理水の活用を検討 ・水使用量削減の取組みを継続
事務用品の グリーン調達率向上	・事務用品購入実績の確実な把握 ・グリーン調達率向上への取組み	86.0 %以上	95.6 %	111.1	152.2 (2009)	100.9	○	・グリーン調達の取組みが定着している	・事務用品購入実績の確実な把握及び、グリーン調達率向上への取組み を継続
スラッジ有効活用によ る産業廃棄物削減	・スラッジ混合路盤材の生産量拡大へ の検討・販売	1,500 t 減	656 t 減	43.7	—	—	×	・生産量拡大への取組みを実施したが、要員確保や製造設備の整備等の 遅延により、目標未達(8月～販売開始) 但し、取組みの成果は着実に上がっている	・生産量拡大の取組みを継続 ・産業廃棄物の委託処理費削減の取組みを継続 3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進の取組みを強化
環境関連法令の 遵守徹底	・内部監査の実施 ・チェックリストの活用	違反件数 ゼロ	違反事例 なし	100.0	100.0	100.0	○	・内部監査による遵守状況の確認や法令等の理解不足等に起因する 不適切な事案(過去発生事案)を共有している ・親会社主催の環境法令に関する理解度調査を実施している	・内部監査による遵守状況の確認・フォローを継続 ・チェックリストを活用し、定期的に遵守状況を確認
【建設業】									
産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底	96.0 %以上	100.0 %	104.2	101.0 (2011)	100.9	○	・分別の取組みが定着している	・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続 優良産廃処理業者認定制度の認定を取得した処理業者を優先に選定
建設資材の グリーン調達率向上	・建設資材購入実績の確実な把握 ・グリーン調達率向上への取組み	86.0 %以上	100.0 %	116.3	101.0 (2013)	100.0	○	・グリーン調達の取組みが定着している	・建設資材購入実績の確実な把握及び、グリーン調達率向上への取組み を継続
【産業廃棄物処理業】									
受託した産業廃棄物 リサイクル率向上	・分別の徹底 ・再生骨材の利用促進	96.0 %以上	99.9 %	104.1	99.9 (2011)	100.0	○	・分別の取組みが定着している ・ポール付属品、路盤材活用による取組みが定着している	・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続 ・再生骨材の利用促進の取組みを継続

注) ・化学物質及び製品・サービスに関する取組みは、環境計画の中で取組む
 ・m²は床面積、tは生産重量、人は事務所人員数を示す

*1 オートクレープとは、飽和蒸気によって内部を高温高圧にし、製品を促進養生できる容器

(3) 事業活動による環境負荷量（業種別）

[]内は2019年度実績

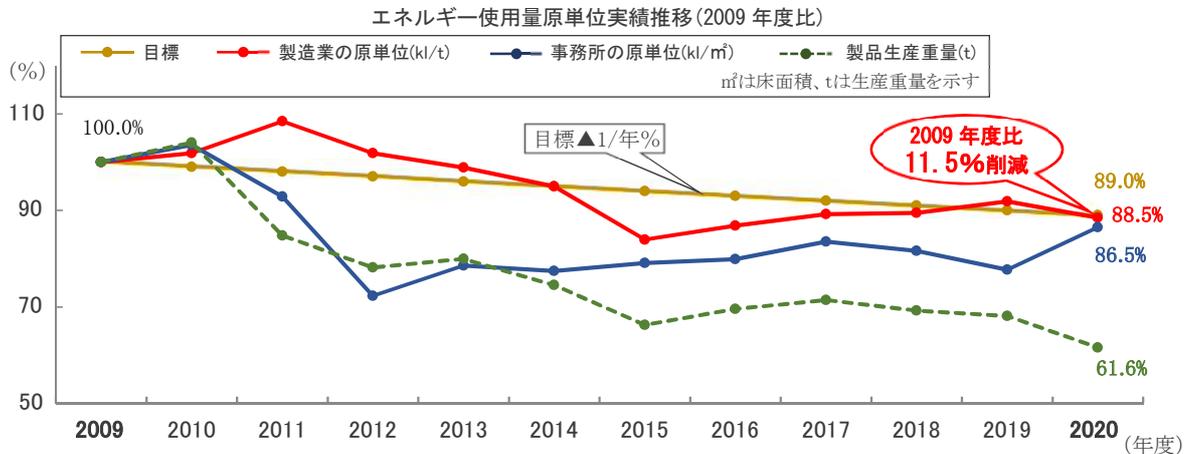
	製造業	建設業	産業廃棄物処理業
資源投入量	エネルギー使用量	エネルギー使用量	エネルギー使用量
	電力 (万 kWh) 204 [219]	電力 (万 kWh) 0.2 [0.1]	電力 (万 kWh) 3.3 [3.5]
	A重油 (kl) 572 [711]	ガソリン (kl) 3 [2]	軽油 (kl) 65 [63]
	軽油 (kl) 25 [25]	資材使用量	水使用量 (千m ³) 0.7 [0.5]
	その他 (kl) 7 [6]	セメント (トン) 6,707 [8,282]	
	水使用量 (千m ³) 40 [38]	生コンクリート (トン) 526 [2,414]	
	コピー用紙使用量 (万枚) 136 [142]	防錆塗料 (トン) 1.1 [1.1]	
	化学物質取扱量	鋼材 (トン) 44 [83]	
	メチルナフタレン (トン) 6.9 [8.4]		
	キシレン (トン) 0.4 [0.5]		
事業活動	生産量	工事件数	受託回収した産業廃棄物の処理量
	 コンクリートポール (千トン) 59.9 [67.7]	鉄塔基礎工事 (件) 125 [192]	受入量 (トン) 16,072 [16,581]
	地中製品 (千トン) 3.1 [2.0]	電力管路工事 (件) 115 [142]	破砕量 (トン) 16,072 [16,581]
		建築・土木 構造物基礎工事 (件) 53 [55]	再資源化量
	古紙リサイクル率 (%) 100.0 [100.0]	その他工事 (件) 67 [83]	路盤材、原材料 (トン) 14,872 [15,320]
	産業廃棄物 リサイクル率 (%) 100.0 [100.0]	産業廃棄物 リサイクル率 (%) 100.0 [99.1]	リサイクル業者に再委託 (トン) 15 [21]
環境負荷量	二酸化炭素排出量 (トン-CO ₂) 2,384 [2,764]	二酸化炭素排出量 (トン-CO ₂) 6 [6]	二酸化炭素排出量 (トン-CO ₂) 180 [177]
	産業廃棄物処分量 (トン) 0.0 [0.0]	産業廃棄物処分量 (トン) 0.0 [10.9]	最終処分量(委託) (トン) 8.3 [13.5]
	化学物質排出量 (トン) 0.7 [0.9]		

・2020年度二酸化炭素総排出量 2,745トン-CO₂(上記3業種、本社電力、全社社有車燃料の合計)

(4) 特定事業者としての取組み（省エネ法の取組み）

2010年、当社は「省エネ法特定事業者」に指定。以下の目標が課せられている。

- 取組み対象 … 電気、ガソリン、軽油、灯油、A重油、LPG
- 努力目標 … エネルギー使用量原単位を基準年度比(2009年度)毎年1%削減
- 2020年度目標 … 基準年度比11%削減
- 2020年度実績 … 製造業(工場)：11.5%削減、事務所(本社)：13.5%削減



[補足]

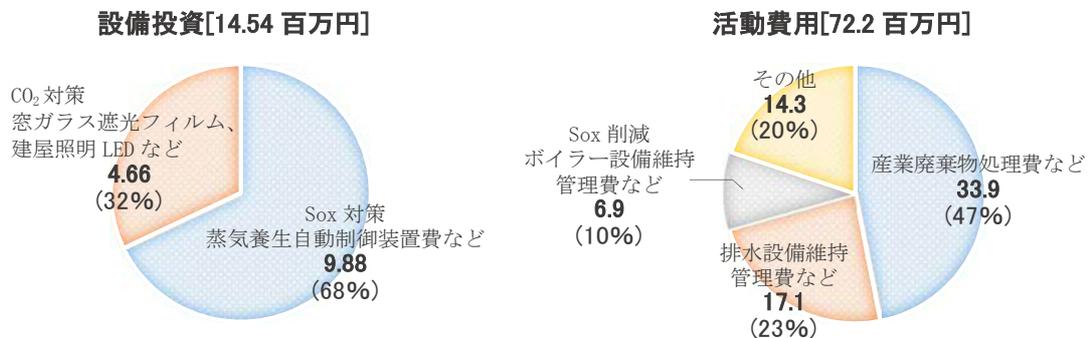
- 製造業の原単位 …
 - ① 電気・A重油使用量の増加。2016年度から製造に工数がかかる通信ポールの受注が増加したため
 - ② A重油使用量を削減。2018年度からコンクリートポール製造工程の「オートクレープ養生廃止」を実施したため
 - ③ ①②の差し引きで原単位が減少
- 事務所の原単位 … 電気使用量が増加。2020年度に新型コロナウイルス感染予防対策として実施した室内換気の徹底により、空調機器の使用が増加したため

(参考) 特定事業者としての実績



(5) 環境活動コスト(実績)

① 投資額



② 主要エネルギーのコスト削減効果

項目	前年度(2019年度)比	基準年度(2009年度)比
電力	1.5 百万円	0.7 百万円
A重油	▲3.7 百万円	▲9.5 百万円
水	1.8 百万円	▲3.6 百万円

・前年度比：0.4 百万円削減
 ・基準年度比：12.4 百万円削減

※原単位換算で算出

(6) 会社収支への貢献

① オートクレープ養生廃止

2018年度に着手し、2020年度にオートクレープ養生をしない製造方法を確立。
A重油(二酸化炭素排出量)、水使用量等を大幅に削減。

A重油(オートクレープ養生燃料)



水(オートクレープ養生使用量)



(オートクレープ缶への) 運搬工数

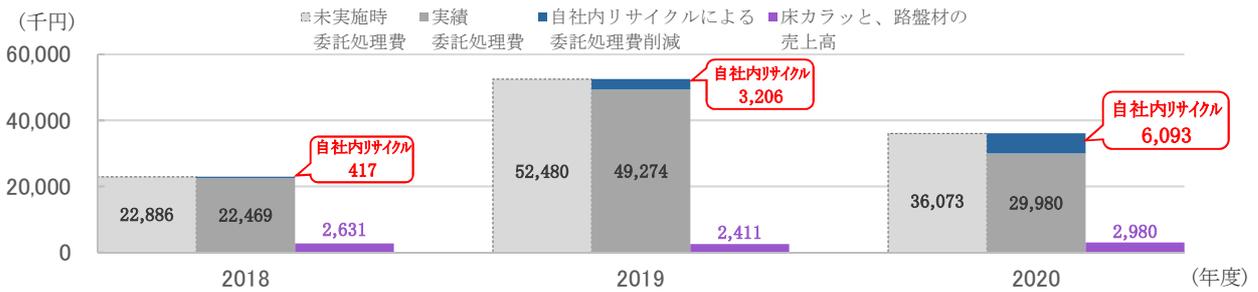


*未実施時とは、オートクレープ養生廃止の改善に着手しなかった費用

② スラッジの再利用

コンクリートポールを製造する過程で発生するスラッジ水(セメントや砂が含有する余剰水)を再利用。

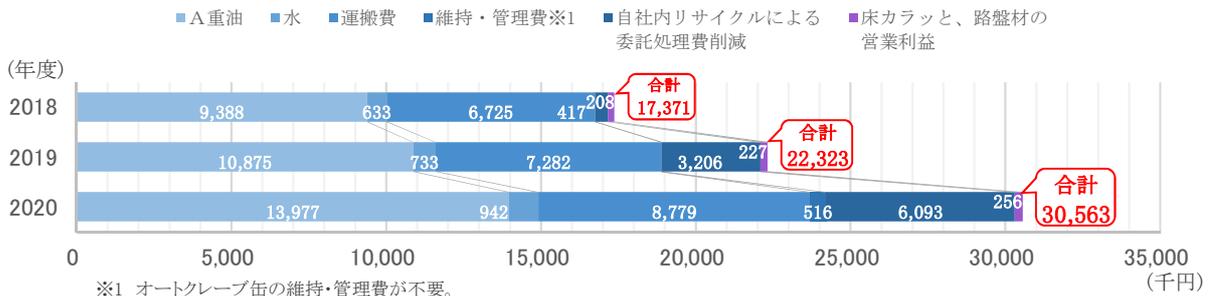
- ① スラッジ水を脱水・乾燥加工し、環境衛生資材「床カラット」として販売。
 - ② 廃品ポールを破碎した再生砕石にスラッジを混合し製品化した「路盤材」を販売。
- 産業廃棄物委託処理費の削減に寄与するとともに売上増にも貢献。



*未実施時とは、自社内リサイクルせず委託処理した費用

③ 合計貢献額(削減費用=営業利益の増)

活動成果 2020年度 30,563(千円)削減



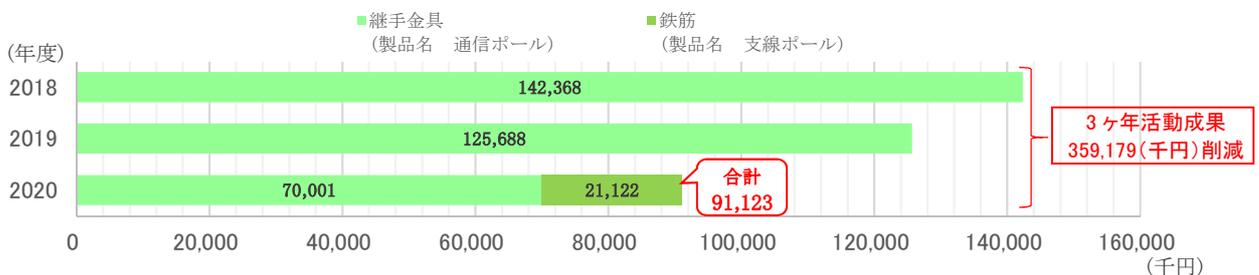
※1 オートクレープ缶の維持・管理費が不要。

(参考) 環境コスト効率化以外の効果(削減費用=営業利益の増)

オートクレープ養生をしない製造方法の確立のため、原材料の見直しに着手。

通信ポールの継手金具の仕様変更や支線ポールの鉄筋使用量削減により、原材料コストを大幅に削減。

原材料および取付費の削減効果



(7) 地域貢献活動

九電グループ3社合同の地域貢献活動

【参加会社】九州林産、九電テクノシステムズ、九州高压コンクリート工業



各社社長



作業の様子



福岡市南区所在の九州林産株式会社、九電テクノシステムズ株式会社と塩原中央公園の清掃活動を実施しました。

地域への貢献と九電グループPRの目的で、2019年度から3社合同で企画、実施しているもので、今回で第2回となります。

今回の活動は、それぞれの会社から社長も参加し、総勢56名の活動となりました。今後も地元企業として、SDGsの達成や地域社会に貢献できる活動を継続していきたいと思ます。

各事業所の地域貢献活動

本 社



熊本工場



豊前工場



活動内容	<p>(本 社) 違反広告物撤去に伴う清掃活動(2回/年) 事務所周辺の清掃活動(1回/週)※輪番制で全員参加 地域清掃ボランティアへの参加(1回/年)</p> <p>(熊本工場) 工場周辺の草刈り及び清掃活動(4回/年) 地域清掃ボランティアへの参加(1回/年)</p> <p>(豊前工場) 工場周辺の清掃活動(1回/年)</p>
------	--

(8) 令和2年度 第13回 環境経営(活動)レポート大賞・九州【環境経営賞】受賞

九州環境カウンセラー協会主催の「環境活動レポート大賞・九州」に2020年度も応募し、環境経営賞を受賞。前回の「大賞」に続いて2年連続の受賞。

- ① 環境負荷低減と経営課題(コスト削減)達成を両立した取組みが、事業活動への成果に繋がっていること
- ② SDGsとリンクした活動を展開し、事業自体のマテリアルバランスが整理されていること
- ③ お客さま・従業員・リクルート等の読み手を意識した読みやすいレポートであることなどを評価していただいた。



(9) オール電化の推進 (CO₂ 排出削減)

老朽化が進んでいた福岡寮を建て替え、2020年11月より運用を開始。創立60周年記念事業の一環として計画したもの。

建て替えに当たっては、電化厨房や各居室へのIH機器・エコキュートを採用し、オール電化を推進。なお、2021年5月運用開始(2021年3月完成)する熊本工場の新食堂にも、電化厨房を採用。今後もできる限り電化を推進し、需要側のCO₂排出削減に貢献していく。



7. 2020年度環境関連法規の遵守状況

環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果、当社事業に適用される環境関連法規への違反なし。関係機関からの違反の指摘や、利害関係者からの訴訟等なし。

	主な法規制の名称	チェックした内容	評価
環境一般	工場立地法	・特定工場 ・生産施設 ・緑地	○
	公害防止管理者法	・公害防止統括者及び公害防止管理者の選任	○
地球環境	地球温暖化対策推進法	・事業活動に伴う排出抑制 ・排出量の報告	○
	省エネ法	・特定事業者の指定 ・エネルギー使用状況の届出 ・エネルギー管理統括者の選任 ・中長期計画の作成	○
	フロン排出抑制法	・事業者の責務・保守点検 ・大気中への放出禁止	○
	オフロード法	・使用の制限	○
廃棄物・リサイクル	廃棄物処理法	・事業者の責務 ・保管基準の遵守 ・許可業者への委託 ・委託基準の遵守 ・マニフェスト管理	○
	建設リサイクル法	・再資源化等の遵守 ・実施状況の記録 ・保存 ・報告	○
	自動車リサイクル法	・再資源化預託金等の預託義務	○
	家電リサイクル法	・収集・再商品化に対する費用負担	○
	小型家電リサイクル法	・分別排出、適切な引き渡し	○
大気騒音振動	大気汚染防止法	・ばい煙発生施設等の届出 ・公害防止管理者等の届出 ・排出規制基準の遵守 ・測定 ・記録	○
	騒音規制法	・特定施設の届出 ・規制基準の遵守	○
	振動規制法	・特定施設の届出 ・規制基準の遵守	○
水質土壌	水質汚濁防止法	・特定施設等の届出 ・排水規制基準の遵守 ・総量規制	○
	浄化槽法	・浄化槽設備の届出 ・未処理水の放流禁止 ・水質基準 ・水質検査 ・保守点検	○
化学物質	PRTR法	・化学物質管理指針に基づく管理 ・排出量、移動量の届出	○
	毒物・劇物取締法	・毒物又は劇物の取扱及び表示	○

8. 産業廃棄物処理業に関する情報

(1) 産業廃棄物処理施設

項目	熊本工場		豊前工場
事業施設の種類の種類	産業廃棄物埋立処分(管理型)	がれき類の破砕施設	がれき類の破砕施設
産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類	がれき類
処理能力	埋立地: 12,152m ² 埋立容量: 60,557m ³	160.0トン/日(8時間)	97.6トン/日(8時間)
許可番号	第埋-014号	第中-226号	第457号
許可年月日	1994年9月9日	2012年5月10日	2010年1月22日

(2) 広域認定制度

項目	内容
産業廃棄物の種類	当社製造のコンクリートポールが産業廃棄物となったもの
処理区域	全国
許可番号	第199号
許可年月日	2010年12月8日

(3) 産業廃棄物処分業

項目	熊本工場	豊前工場
事業の範囲	中間処理(破砕)	中間処理(破砕)
産業廃棄物の種類	ガラスくず、がれき類	ガラスくず、がれき類
処理方式	ジョークラッシャー方式	油圧スクリーンクラッシャー方式
許可番号	04325008997	04020008997
許可年月日	2018年9月26日	2017年2月20日
有効期限	2023年9月25日	2022年2月21日

(4) 処理工程図



1. 廃品ポール搬入



2. 廃品ポール粗割



3. 一次破砕



二次破砕



4. 振動ふるい分け

- ・ 自社利用(再生骨材)
- ・ 売却(金属・路盤材)
- ・ 処理委託(廃プラスチック)

9. 2021年度環境活動目標

(1) 中長期目標 向こう3ヶ年の目標（2021年度～2023年度）

- ・二酸化炭素排出量、水使用量 … 前年度目標値1%削減
- ・産業廃棄物リサイクル率 … 基準年度の実績を目標に設定し継続取組み
- ・事務用品グリーン調達率 … 前年度目標継続取組み

項目		2020年度 (基準年) ^{※1}	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量	目標【t-CO ₂ /t】	0.04208	0.04166	0.04124	0.04083
	実績【t-CO ₂ /t】	0.04068	-	-	-
産業廃棄物 リサイクル率	目標【%】	96	96	96	96
	実績(製造業)【%】	100	-	-	-
	実績(建設業)【%】	100	-	-	-
水使用量	目標【m ³ /t】	0.75	0.74	0.74	0.73
	実績【m ³ /t】	0.65	-	-	-
事務用品 グリーン調達率	目標【%】	86	86	86	86
	実績【%】	96	-	-	-

- ・※1は、向こう3ヶ年目標の基準年度を示す
- ・tは生産重量を示す

(2) 単年度目標

項目	2021年度目標	目標設定の考え方	(参考) 2020年度目標
【製造業】			
オフィス電力使用量削減	7.66kWh/m ² 以下	継続目標として取組み	7.66kWh/m ² 以下
工場等の電力使用量削減	32.8kWh/t以下	現状に合った目標値に見直し 省エネ法の原単位▲1%削減は A重油でカバーする	30.0kWh/t以下
低公害車の導入	71.0%以上	継続目標として取組み	71.0%以上
ガソリン消費率向上	13.5km/ℓ以上	継続目標として取組み	13.5km/ℓ以上
A重油使用量削減	9.0ℓ/t以下	省エネ法の原単位▲1%削減を 確保するため見直し	10.9ℓ/t以下
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取組み	96.0%以上
古紙リサイクル率 100%	100.0%	継続目標として取組み	100.0%
用紙使用量削減	975枚/人以下	継続目標として取組み	975枚/人以下
オフィス水使用量削減	0.54m ³ /人以下	継続目標として取組み	0.54m ³ /人以下
工場等の水使用量削減	0.74m ³ /t以下	中長期目標に従い前年目標▲1%	0.75m ³ /t以下
事務用品のグリーン調達率向上	86.0%以上	継続目標として取組み	86.0%以上
スラッジ有効利用による産業廃棄物削減	1,500t 減 (再生路盤材原料に活用)	継続目標として取組み	1,500t 減 (再生路盤材原料に活用)
環境法令違反及び環境事故の防止徹底	違反件数ゼロ	継続目標として取組み	違反件数ゼロ
【建設業】			
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取組み	96.0%以上
建設資材のグリーン調達率向上	86.0%以上	継続目標として取組み	86.0%以上
【産業廃棄物処理業】			
受託した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	継続目標として取組み	96.0%以上

※m²は床面積、tは生産重量、人は事務所人員数を示す

(3) 活動内容

地球環境問題

- ・エネルギー消費量の抑制(エアロス対策・熱ロス対策の徹底)
- ・夏季・冬季における節電への取組み

循環型社会形成

- ・「コンクリートロス低減」、「スラッジ無害化処理による環境衛生資材への転用」、「スラッジ再生路盤材原料としての資源活用」を中心とした3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進への取組み

地球環境の保全

- ・環境保全設備の適切な運用(環境法規に関する測定の徹底[濃度・排出量・騒音・振動])

環境管理の推進

- ・環境関連法規等の特定及び管理表に基づく確実な遵守評価の継続実施

SDGsの推進

- ・積極的な環境改善活動を通じてSDGsの重要性について一層の理解・浸透を図る

10. 代表者による全体評価と見直し

1957年創業の当社の環境活動は、2011年のエコアクション21認定制度への加入以降、本格化しました。そういう意味で当社の取組みは歴史的にはまだ新しいと言えます。

しかし、創立60周年を迎えた2017年、環境活動レポート大賞・九州エネルギー部門賞の受賞により、それまでの模索的な取組みからより体系的な取組みへと変化させることができました。エコアクション21への対応自体が当社従業員全体の環境活動への意識の高まりにも寄与したと感謝しています。

昨今の気候変動問題の影響がより身近な脅威となっていることを踏まえ、当社は、社会インフラの整備に携わる企業として、従業員一人ひとりが環境負荷低減に向けた環境活動の重要性と必要性を常に認識しなければなりません。その上で当社は、自然環境の変化への感受性を高めつつ、持続的発展が可能な社会の実現に向け、環境活動を愚直に進めてまいります。

(1) 2020年度活動の総括

活動全体として、環境経営方針に基づく環境計画の策定及び実績の管理、環境関連法規等の遵守状況のチェック、教育・訓練の実施等に加えてそれら活動情報の公開も継続的に実施しており、活動は着実に定着してきていると評価しています。また、「オートクレーブ養生廃止」及び「スラッジの再利用」の削減費用を明確化し、それぞれ会社収支への貢献を始めて見える化したことを評価しています。

主な取組みとしては、

- ① 主要管理項目16項目のうち、13項目については概ね目標を達成しました。未達項目である「工場及びオフィスの電力使用量」については、主力製品である電力ポールの受注減に伴う生産量当たりの電力使用量が増加したことに加え、猛暑日対策や新型コロナウイルス感染予防対策の従業員の労働作業環境に配慮した空調機器の電力が増加したことなど、止むを得ないものと評価しています。

「スラッジ有効利用による産業廃棄物削減」については、取組み初年度であったため、製造設備の整備に時間を要し、結果として目標未達となりました。しかし、取組みの成果は着実に上がっていますので、資材循環への取組みの拡充強化を引き続き図っていきます。

- ② 2020年5月、オートクレーブ養生の運用を完全に停止しました。その結果、A重油使用量を削減でき、中長期目標である『温室効果ガスの排出量削減』は大きく改善し、2009年度以来初めて目標を達成することができました。

(2) 2021年度取組み

2021年度は、今回取りまとめた2つのツール「PDCAサイクル」「会社収支への貢献の見える化」を有効活用し、目標達成に取り組めます。省エネルギーについては、老朽化設備をエネルギー効率の高い設備への更新、既存設備を効率的に運用することなどにより、エネルギー消費量を抑制します。産業廃棄物については、コスト低減及び環境負荷低減の観点から、自社内での3R(リデュース、リユース、リサイクル)を目指した取組みを一層拡充強化します。

当社は、「オートクレーブ養生廃止」の効果により、2020年度以降のエネルギー使用量(原油換算)を1,500kℓ以下で維持できる見通しが立ちましたので、「省エネ法特定事業者」ではなくなります。しかし、SDGsやカーボンニュートラル等の社会情勢を踏まえ、引き続き環境負荷低減に向けた取組みを進めていく所存です。



本レポートについてのご意見・お問い合わせ先

九州高圧コンクリート工業株式会社

環境管理責任者	取締役常務執行役員 業務本部長	仲野 眞司
エネルギー管理企画推進者	業務本部総務グループ長	森下 志朗
環境管理担当者	業務本部総務グループ	吉本 誠一 松田 祐也

TEL (092) 554-6650 FAX (092) 554-6702 <http://www.kyuatsu.co.jp/>

2021年8月1日発行